

『うつ病と仕事の狭間の想いとは何か？』

子ども家庭教育フォーラム
湯浅 和彦

会社のA氏が「うつ病」と診断された。その時、A氏は「仕事を続けながら治したい」と言った。A氏が仕事に復帰するまでの経過と対応を検討し、私の「気づき」と「思いを」示した。A氏は2か月の休職後、職場復帰しているが、A氏と向き合い、様々の話を聴いていると、休職をしたからこそ、「職場復帰できなかったら」、「病気が治らなかったら」など、新たな悩みや苦しみが生まれてくることが気づけた。A氏にとっての職場は、家庭と同じ、生活の場であり、自己存在感や自己肯定感を得る、居場所でもあった。病気治療のため、休職することが有効である。しかし、A氏が言う「仕事を続けながら治すこと」は不可能なのであろうか。発表を通じ、「人には居場所が必要だ」ということを重く理解し、「うつ病と仕事の狭間の想い」の深さを学び、今後の研究へ繋げたいと思いました。